

3. 木津川市地域公共交通網形成計画

3.1 計画の基本的な方針

本市では、将来の都市構造として、都市機能の中心的役割を果たす地域を「拠点」、各拠点を連携する鉄道・バスといった公共交通機関などを「拠点・市街地交流軸」と位置づけ、木津川市の一体性を高めるとともに、だれもが住みやすいまちづくりを目指している。

この考え方にに基づき、これまで、市内における地域公共交通の活性化と連携・活力と魅力あるまちづくりの推進に取り組んできており、引き続き、地域特性はもとより環境負荷の軽減、地域活性化、交通弱者等が安心・安全に移動できる生活環境の確保等に配慮した地域公共交通サービスの充実を図っていく必要がある。

これらのことから、本市の地域公共交通形成の基本方針を以下の通りとする。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 地域特性に応じた利便性の高い地域公共交通体系を構築することにより、活力と魅力ある地域づくりを目指す② 鉄道・バス・タクシー等が連携し、利用しやすく満足度の高い持続可能な地域公共交通づくりに取り組む |
|---|

3.2 計画の区域

計画の対象区域は、木津川市内全域とする。

3.3 計画の期間

計画の期間は、平成 27 年 4 月から平成 32 年 3 月までの 5 年間とする。期間中は年度毎に事業進捗評価を実施するものとし、計画終了時には次期計画に向けた改定作業を実施する。

また、上位関連計画等の改定時期には、必要に応じて記載事項の見直しを実施する。

3.4 計画の目標

計画では、地域公共交通が連携しサービスを改善・推進するとともに、公共交通に関する情報提供を充実・発信すること、より多くの人に公共交通を利用してもらうことを目指す。これらの目標数値として、「コミュニティバスの利用者数」、「市民アンケート調査における総合的な満足度」及び「市民アンケートにおける通勤・通学の便利さに対する満足度」を用いることとし、次に示す表のように設定した。

なお、表中で、「市民アンケートにおける通勤・通学の便利さに対する満足度」は朝晩の時間帯を中心に運行する民間路線バスを評価する項目、「コミュニティバスの利用者数」は昼間の時間帯を中心に運行する木津川市コミュニティバスを評価する項目として設定している。

表 3-1 計画の目標値

指標 1 【年間利用者数】	実績値					目標値 H31
	H21	H22	H23	H24	H25	
コミュニティバス 年間利用者数(人)※1	390,474	311,114	283,333	283,029	274,324	300,000

※1「第1次木津川市総合計画後期基本計画」における施策 26 地域公共交通ネットワークの充実の成果指標においても記載。

出典：木津川市地域公共交通総合連携協議会資料

指標 2 【満足度】	実績値		目標値 H31
	H19	H26	
市民アンケートにおける 総合的な満足度※2	2.89	3.09	3.30

※2 アンケート回答より、非常に満足=5点、満足=4点、どちらともいえない=3点、不満=2点、非常に不満=1点として加重平均値を算出

出典：バスや鉄道などの交通に関するアンケート調査 (H26)
木津川市の公共交通に関するアンケート調査 (H19)

指標 3 【満足度】	実績値	目標値 H31
	H25	
市民アンケートにおける 通勤・通学の便利さに対する満足度	34.7%	39.7%

出典：木津川市のまちづくりに関するアンケート調査

3.5 各主体に期待する役割

本計画を効果的に活用していくためには、市民、交通事業者、行政に代表される公共交通に関わる様々な主体がそれぞれの役割を果たして共に協力していくことが重要である。これらの各主体に期待される役割を以下に示す。

<p>■市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動時における積極的な地域公共交通の利用 ・ 実施される地域公共交通利用促進施策の利用・活用 ・ 可能な範囲での主体的な利用促進の取り組み
<p>■交通事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確実な運行事業の実施 ・ サービス提供者からみた、効果的な施策の提案 ・ 可能な範囲での実施施策への協力
<p>■行政（木津川市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国や府と連携しながら、主体的に施策を講じ実施 ・ 市民及び事業者との連携体制の構築 ・ 持続可能な運行に向けた事業の展開